

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3650180015		
法人名	社会福祉法人 愛心会		
事業所名	グループホームたんぼぼ		
所在地	徳島県徳島市新西浜2丁目3-33		
自己評価作成日	平成25年7月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成25年9月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は、大型スーパーや店舗の建ち並ぶ生活環境の豊かな場所に立地している。法人は関連施設も多く幅広いネットワークを持っており、地域に根ざした運営を心がけている。日頃から併設事業所の在宅、施設サービスとの協力体制を強化し、夜間の災害時や緊急時に早急な対応が出来る様連携を図っている。利用者一人ひとりの個性を理解し、本人本位のケアが実現できるよう全職員がチームとして取り組んでいる。利用者の状況を把握し、日頃のケアに反映出来るよう話しあい、介護計画の作成や見直しを行っている。また、誕生会や夏祭り、敬老会などを併設事業所と合同で開催し、地域の方にも参加してもらっている。また、防災訓練への地域住人の参加も呼びかけて実施するようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、津波を想定した避難訓練を実施したり、レクリエーションや外出の支援に取り組んだりしている。また、代表者や管理者は、職員とのコミュニケーションを大切に捉え、意見や要望の把握に努めている。職員のアイデアや気づきを、管理者がしっかりと受け止め、サービスの質の向上に反映するよう取り組んでいる。利用者はそれぞれの個性を活かした役割を担い、生き生きと楽しく生活を送っている。同一法人の運営する他サービス事業所が併設しており、ともに行事等を行うことで華やかで楽しみのある生活を提供している。内部研修等を合同で実施するなどして、協力体制に基づく支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やスタッフルームに理念を掲示し、職員間で意識の共有化を図っている。朝礼、申し送りの前に理念を唱和している。	全職員で地域密着型サービスの意義や役割を考え、具体的なケアのあり方について話しあっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に、地域の小学生との交流会や事業所見学を行っている。また、毎年、夏祭りや敬老会、開所記念式典等に地域の方々にも参加していただき交流を深めている。	事業所では、地域の小学生の来訪や高校生の実習を受け入れるなどして交流を深めている。また、同一法人の運営する他サービス事業所と合同で夏祭りや敬老会等の行事を行っており、地域の方たちへ参加を呼びかけて参加を得ている。また、地域の文化祭へ参加したり、職員が町内会の清掃活動に参加するなど、地域の一員として積極的に活動している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員やボランティア活動の代表者などが参加されている運営推進会議のなかで認知症の人の理解や支援の現状について話す機会があり認知症について理解を深めてもらったり、質問を受けたりしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際、事業所の取り組みや様々な事柄を報告・相談を行っている。自己評価や外部評価を報告し、参加者から率直な意見をもらってサービスの質の向上に活かしている。全職員に、会議録を回覧して内容を確認してもらっている。	事業所では、家族や地域住民の代表者、民生委員、地域包括支援センター職員の参加を得て、定期的に運営推進会議を開催している。利用者の暮らし方や行事の状況等を報告したり、感染症対策や防災、認知症等を議題に取りあげたりして、参加者から意見やアドバイスをもらっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	実地指導や認定更新、又、日頃の書類提出の面談時に状況を伝えて連携を図っている。事業所で困っていることなどを市の担当者に直接相談出来る機会がある。	困難な課題があったときなどには、市担当者へ電話で連絡を行い相談している。事業所の実績報告や介護認定の申請を行う際には、市担当窓口を訪問して現状を伝え、問題解決に向けて連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束しないケアについて理解し、実践している。出入り口については、安全性に配慮した上でアウトデッキへ自由に出入りできるよう工夫している。安全策としてチャイムがなるように工夫している。	年2回、同一法人の運営する他サービス事業所で身体拘束に関する研修を開催しており、全職員が参加できるよう調整している。職員間でケアを確認しあったり、見守りを重視した支援に努めることで、利用者の自由な暮らしの支援に繋げている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の勉強会を通じて、高齢者虐待防止に関する理解の徹底や遵守に向けて取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修を通じて理解を深め、必要と思われる利用者への支援に活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、重要事項説明書や利用契約書を説明している。ケアに関する取り組みや退居を含めた対応可能な範囲について説明を行っている。契約の改定をする場合には説明を行い、理解を得られるよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪時やケアプランの作成・提出時等に意見や要望を言いやすいように、雰囲気作りで配慮している。又、家族会や運営推進会議の際に出された意見や要望を運営に反映している。	日ごろから職員は、利用者との関わりのなかで一人ひとりの意見を聞くようにしている。また、家族の来訪時には、積極的にコミュニケーションを図るよう心がけ、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。出された意見や要望は、職員間で検討し速やかに対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に、スタッフミーティングや職員の個別面談を実施して意見を聞くように心掛けている。日頃の職員の気づきやアイデアや試みを大切に運営に反映させている。	週1回、代表者は事業所を訪れており、管理者が事業所の状況を報告している。また、その際、職員から意見や要望を伝え、運営面へ反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は協力病院の院長でもあり、月数回往診のためホームに来ている。相談しやすい環境にあり、職員の疲労やストレスの要因を把握し、働きやすい環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、テーマを決めて施設内研修を開催している。毎回、ほぼ全職員が出席している。外部研修も積極的に参加している。新人職員のトレーニングはOJTを採用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本グループホーム協会徳島県支部に所属し、協会が主催する勉強会や事例検討会などに参加している。他事業所の職員と意見交換を行って、事業所のサービスに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前に本人の困っていることや不安に思っていること、希望していることなどを十分に聞き出せるように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に、家族の希望や不安に感じる事を話を聞きながら把握しようと努めている。最初の関わりを通じて、信頼関係が築けるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の状況や思い・要望を把握し、必要としている支援を見極めて利用者本位の対応を心がけている。また、家族と職員の間で話し合える場を多く設け、信頼関係が築けるよう配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を一方的に介護されるだけの受身の立場におかず、人生の先輩として学ばせてもらう場面をつくっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に、利用者の体調や日ごろの生活の様子をこまめに報告し、情報の共有を図っている。利用者をもとに支えていくために協力関係を築くよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人や知人等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。電話をかけた手紙を出すことを支援している。また、美容院に出かけたり、法事や墓参り、地域のかかりつけ医への通院等を継続できる様支援している。	事業所は、家族の協力を得たうえで馴染みの美容院へ出かけたたり、知人の来訪を受け入れたりして、利用者の馴染みの人との継続的な交流を支援している。家族や知人へ積極的に働きかけるなどして様々な情報を得ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係やその他の情報を全職員が共有できるよう取り組んでいる。また、利用者間でトラブルが生じないよう、職員が調整役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もこれまでの暮らしの継続性に配慮して、支援状況や習慣、好みなどの情報を提供し相談に応じている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの関わりのなかで希望や意向の把握に努めている。また、アセスメントシートを使用し、その人らしく暮らし続けられるよう支援している。思いや意向の把握が困難な場合は、利用者の気持ちに立って、家族の意見も取り入れて支援している。	事業所の理念に基づき、利用者一人ひとりが安心して生活を送ることができるよう支援している。意思疎通が困難な方には、行動や表情の変化に留意し、真意を汲みとるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりのこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方、家族構成、服薬状況、既往歴、入居に至るまでの経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や生活のリズムを理解するよう努めている。心身状態やできること、わかる力を総合的に把握し理解するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日ごろの関わりのなかで、本人や家族の意向等を把握してアセスメントやケアプランに反映させている。サービス担当者会議の際、出席者より出された意見等をケアプランに反映させている。	担当者会議には家族にも参加してもらって介護計画を作成している。会議に参加できない家族には、電話で意向を確認するなどして介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の一日の状態やケアの実践を個人ファイルに記録している。職員の気づきや利用者の状態変化は、ケアプランやモニタリングの評価等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の状況、その時々々の要望に応じている。外泊、外出等にも柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センター職員に参加してもらい、支援に関する情報を交換するなど協力関係を築いている。警察署や消防署、民生委員と連携を図って協働している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医での受診は、基本的に家族が付きそうことになっているが、状況に応じて職員が送迎や付き添いを行い、適切な医療を受けられるように支援している。	週1回、医師の往診がある。医療機関の受診時には、家族の同行を得て受診を支援している。利用者や家族の状況によっては、職員が付きそっている。複数の専門医との関係を構築することができるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日ごろの関わりの中かで、利用者を注意深く観察し、情報や気づきを看護職に伝えている。利用者が適切な医療や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者がやむ得ず入院に至った際、入院先の医療機関にお見舞いに行って病状を把握するように努めている。医療機関の関係者と情報交換を行って相談にのってもらえる関係づくりの構築に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化した場合や終末期のあり方について説明している。事業所としての方針や具体的な支援方法を示している。	看取りを実施したことはないが、利用者が重度化した場合や終末期に関する話し合いを職員間で行っている。入居時の段階で、本人や家族へ事業所で対応できるケアのあり方について説明している。また、利用者の心身状況の変化に応じて、家族や関係者間で話し合いを行い、対応方針を定めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に、事業所内で急変時の対応に関する勉強会や訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、併設事業所と合同で防災訓練を実施している。また、グループホーム単独でも地震発生時の避難訓練を行っている。更に、地域の住民や消防署主催の各種訓練に参加し、地域との協力関係を築いている。法人全体で、災害時用の備蓄を行っている。	年1回、津波を想定した避難訓練を実施している。また、年2回、同一法人の運営する他サービス事業所との合同訓練を開催し、通報や避難、消火器の使用等に関する訓練を実施している。地域の方にも声かけを行い、訓練に参加してもらうなどして協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室はガラス張りになっているが、利用者や家族の希望に応じてフィルムを張るなどの工夫をしている。利用者一人ひとりがプライバシーを確保できるよう声かけや対応に留意している。	職員は、利用者の気持ちを第一に考えた支援に努めている。あからさまな介助や声かけをしないよう留意している。また、日ごろから本人が自由に選択し自己決定することができるような支援や声かけに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	週1回、たんぼぼ喫茶を開き飲み物やおやつを選んで貰い自己決定が出来る場面を設けている。利用者にとっては突然動き出す、落ち着いた様子などのサインを見逃さずトイレ誘導を行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レク、入浴、外出等の利用者の意向やペースに合わせて、強制的にならないように気をつけている。本人の希望に沿って支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族にも協力して貰い、季節や似合う色や好みに合った服装を身につけている。男性の髭剃りは難しい場合は手伝っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞いて献立を立て、菜園でできた野菜を用いて調理している。また、食べやすいように食事形態や食材を工夫している。食前には嚥下体操を行って食事を安全に楽しめるように工夫している。	週1回、利用者と職員でミーティングを行ってメニューを決めている。また、利用者の力量に応じて、調理や下準備、盛りつけ、食器洗いなどの役割を担ってもらっている。菜園で収穫した食材が食卓にのぼることもあり、楽しみのひとつとなっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量が少ない方には水分補給と共に栄養補助食品(メイバランス等)を提供している。"むせ"によって水分補給が難しい方にはゼリー等で水分補給をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、自分では難しい方は職員が介助して口腔ケアを行っている。夜間は入れ歯洗浄剤を使用し、入れ歯の洗浄を行い口臭の予防を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の介助が必要な方には、失禁による不快感を軽減するため、2時間おきに声かけを行うようにしている。	紙パンツやパット、ポータブルトイレ等を活用し、一人ひとりの状況や希望にあわせた排泄介助に努めている。尿意のない方にはチェック表を活用することで、時間を見計らってトイレへ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ラジオ体操やリハビリ体操を行っている。十分な水分補給や繊維質の多い野菜等の食材を利用することで便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒否しがちな利用者には入浴することのメリットを伝え、自分の意思で入浴してもらえるよう声かけしている。	少なくとも週3回は入浴することができるよう支援している。入浴を拒む利用者には、タイミングを見計らって声かけを行っている。入浴の順番や生活習慣にも配慮し、一人ひとりの希望に応じた支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	十分な睡眠が得られるように配慮している。円滑に就寝できるように、夕方から穏やかにゆったりした時間を過ごせるように配慮している。昼食後も食堂に設置しているソファ等でくつろげるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の服薬の情報を職員一人一人が理解しており、服薬が難しい方にはゼリー、オブラート等を使用し見守りの必要な方は食後に手渡すようにして工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんだり、お盆を拭いたり、リネンをたたんだり、食器を洗ったり、食事の手伝いをしたり等の生活役割があり、利用者一人一人に合った役割を持ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回程度の外出で気分転換やストレス発散を図っていただいている。花見や買い物、喫茶店、公園の散策、阿波踊り鑑賞等の支援を行っている。	月1回、特別な外出の機会を設けており、季節の花見や公園等へお弁当を持参して出かけている。また、買い物や喫茶店、阿波踊りの見物等も行っており、積極的に外出している。天候の良い日や利用者の体調に応じて、事業所周辺を散歩したり、テラスに出て外の空気に触れたりして気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当事業所では、家族の協力を得て小額のお金を所持している方もいる。外出時、お金を自分で払っていただけるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて電話をかける手伝いをしたり、手紙を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間には、利用者の写真やちぎり絵などの趣味の作品を展示している。食堂のガラス窓にキュウリで緑のカーテンをつくり、涼しく居心地の良い空間作りに取り組んでいる。また、マッサージ器を設置して利用してもらっている。	明るく広い廊下やリビングには、利用者の写真や書道、手芸作品等を飾っており、家庭的な雰囲気がある。また、ソファやマッサージ器を配置し、ゆったりとくつろぐことができるよう配慮している。ウッドデッキにはベンチや花壇を設置し、季節を感じることもできる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や食堂にソファを設置し、気の合う利用者同士が談笑できるようにしている。また、テレビの前に設置しているソファの配置を工夫し、利用者全体が楽しめるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各利用者の居室には日々の生活の写真や家族手作りの物などを壁に掲示したり飾ったりしている。	居室には、テーブルや椅子、テレビや冷蔵庫等、利用者一人ひとりの使い慣れた家具や小物を持ち込んでもらっている。家族の写真や位牌、思い出の品々もあり、本人が安心して過ごすことのできる居室の環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能の変化に応じて介護シューズを使用してもらい、安全で自立した生活を送れるよう支援している。居室の場所が分かりやすいように、離れても見える位置に名前を掲示している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やスタッフルームに理念を掲示し、職員間で意識の共有化を図っている。朝礼、申し送りの前に理念を唱和している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に、地域の小学生との交流会や事業所見学を行っている。また、毎年、夏祭りや敬老会、開所記念式典等に地域の方々にも参加していただき交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員やボランティア活動の代表者などが参加されている運営推進会議のなかで認知症の人の理解や支援の現状について話す機会があり認知症について理解を深めてもらったり、質問を受けたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際、事業所の取り組みや様々な事柄を報告・相談を行っている。自己評価や外部評価を報告し、参加者から率直な意見をもらってサービスの質の向上に活かしている。全職員に、会議録を回覧して内容を確認してもらっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	実地指導や認定更新、又、日頃の書類提出の面談時に状況を伝えて連携を図っている。事業所で困っていることなどを市の担当者に直接相談出来る機会がある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束しないケアについて理解し、実践している。出入り口については、安全性に配慮した上でウツデッキへ自由に入りできるように工夫している。安全策としてチャイムがなるように工夫している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の勉強会を通じて、高齢者虐待防止に関する理解の徹底や遵守に向けて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修を通じて理解を深め、必要と思われる利用者への支援に活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、重要事項説明書や利用契約書を説明している。ケアに関する取り組みや退居を含めた対応可能な範囲について説明を行っている。契約の改定をする場合には説明を行い、理解を得られるよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪時やケアプランの作成・提出時等に意見や要望を言いやすいように、雰囲気作りに配慮している。又、家族会や運営推進会議の際に出された意見や要望を運営に反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に、スタッフミーティングや職員の個別面談を実施して意見を聞くように心掛けている。日頃の職員の気づきやアイデアや試みを大切に運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は協力病院の院長でもあり、月数回往診のためホームに来ている。相談しやすい環境にあり、職員の疲労やストレスの要因を把握し、働きやすい環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、テーマを決めて施設内研修を開催している。毎回、ほぼ全職員が出席している。外部研修も積極的に参加している。新人職員のトレーニングはOJTを採用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	日本グループホーム協会徳島県支部に所属し、協会が主催する勉強会や事例検討会などに参加している。他事業所の職員と意見交換を行って、事業所のサービスに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前に本人の困っていることや不安に思っていること、希望していることなどを十分に聞き出せるように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に、家族の希望や不安に感じる事を話を聞きながら把握しようと努めている。最初の関わりを通じて、信頼関係が築けるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の状況や思い・要望を把握し、必要としている支援を見極めて利用者本位の対応を心がけている。また、家族と職員の間で話し合える場を多く設け、信頼関係が築けるよう配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を一方的に介護されるだけの受身の立場におかず、人生の先輩として学ばせてもらう場面をつくっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に、利用者の体調や日ごろの生活の様子をこまめに報告し、情報の共有を図っている。利用者とともに支えていくために協力関係を築くよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人や知人等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。電話をかけたり手紙を出すことを支援している。また、美容院に出かけたり、法事や墓参り、地域のかかりつけ医への通院等を継続できる様支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係やその他の情報を全職員が共有できるよう取り組んでいる。また、利用者間でトラブルが生じないよう、職員が調整役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もこれまでの暮らしの継続性に配慮して、支援状況や習慣、好みなどの情報を提供し相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの関わりのなかで希望や意向の把握に努めている。また、アセスメントシートを使用し、その人らしく暮らし続けられるよう支援している。思いや意向の把握が困難な場合は、利用者の気持ちに立って、家族の意見も取り入れて支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりのこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方、家族構成、服薬状況、既往歴、入居に至るまでの経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や生活のリズムを理解するよう努めている。心身状態やできること、わかる力を総合的に把握し理解するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日ごろの関わりのなかで、本人や家族の意向等を把握してアセスメントやケアプランに反映させている。サービス担当者会議の際、出席者より出された意見等をケアプランに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の一日の状態やケアの実践を個人ファイルに記録している。職員の気づきや利用者の状態変化は、ケアプランやモニタリングの評価等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の状況、その時々々の要望に応じている。外泊、外出等にも柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センター職員に参加してもらい、支援に関する情報を交換するなど協力関係を築いている。警察署や消防署、民生委員と連携を図って協働している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医での受診は、基本的に家族が付きそうことに、なっているが、状況に応じて職員が送迎や付き添いを行い、適切な医療を受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日ごろの関わりの中かで、利用者を注意深く観察し、情報や気づきを看護職に伝えている。利用者が適切な医療や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者がやむ得ず入院に至った際、入院先の医療機関にお見舞いに行き病状を把握するように努めている。医療機関の関係者と情報交換を行って相談にのってもらえる関係づくりの構築に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化した場合や終末期のあり方について説明している。事業所としての方針や具体的な支援方法を示している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に、事業所内で急変時の対応に関する勉強会や訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、併設事業所と合同で防災訓練を実施している。また、グループホーム単独でも地震発生時の避難訓練を行っている。更に、地域の住民や消防署主催の各種訓練に参加し、地域との協力関係を築いている。法人全体で、災害時用の備蓄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室はガラス張りになっているが、利用者や家族の希望に応じてフィルムを張るなどの工夫をしている。利用者一人ひとりがプライバシーを確保できるよう声かけや対応に留意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	週1回、たんぼぼ喫茶を開き飲み物やおやつを選んで貰い自己決定が出来る場面を設けている。利用者にとっては突然動き出す、落ち着かない様子などのサインを見逃さずトイレ誘導を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レク、入浴、外出等の利用者の意向やペースに合わせて、強制的にならないように気をつけている。本人の希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族にも協力して貰い、季節や似合う色や好みに合った服装を身につけている。男性の髭剃りは難しい場合は手伝っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞いて献立を立て、菜園でできた野菜を用いて調理している。また、食べやすいように食事形態や食材を工夫している。食前には嚥下体操を行って食事を安全に楽しめるように工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量が少ない方には水分補給と共に栄養補助食品(メイバランス等)を提供している。”むせ”によって水分補給が難しい方にはゼリー等で水分補給をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行い、自分では難しい方は職員が介助して口腔ケアを行っている。夜間は入れ歯洗浄剤を使用し、入れ歯の洗浄を行い口臭の予防を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の介助が必要な方には、失禁による不快感を軽減するため、2時間おきに声かけを行うようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ラジオ体操やリハビリ体操を行っている。十分な水分補給や繊維質の多い野菜等の食材を利用することで便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を拒否しがちな利用者には入浴することのメリットを伝え、自分の意思で入浴してもらえるよう声かけしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	十分な睡眠が得られるように配慮している。円滑に就寝できるように、夕方から穏やかでゆったりした時間を過ごせるように配慮している。昼食後も食堂に設置しているソファ等でくつろげるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の服薬の情報を職員一人一人が理解しており、服薬が難しい方にはゼリー、オブラート等を使用し見守りの必要な方は食後に手渡すようにして工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんだり、お盆を拭いたり、リネンをたたんだり、食器を洗ったり、食事の手伝いをしたり等の生活役割があり、利用者一人一人に合った役割を持ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回程度の外出で気分転換やストレス発散を図っていただいている。花見や買い物、喫茶店、公園の散策、阿波踊り鑑賞等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当事業所では、家族の協力を得て小額のお金を所持している方もいる。外出時、お金を自分で払っていただけるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて電話をかける手伝いをしたり、手紙を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間には、利用者の写真やちぎり絵などの趣味の作品を展示している。食堂のガラス窓にキュウリで緑のカーテンをつくり、涼しく居心地の良い空間作りに取り組んでいる。また、マッサージ器を設置して利用してもらっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や食堂にソファを設置し、気の合う利用者同士が談笑できるようにしている。また、テレビの前に設置しているソファの配置を工夫し、利用者全体が楽しめるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各利用者の居室には日々の生活の写真や家族手作りの物などを壁に掲示したり飾ったりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能の変化に応じて介護シューズを使用してもらい、安全で自立した生活を送れるよう支援している。居室の場所が分かりやすいように、離れても見える位置に名前を掲示している。		